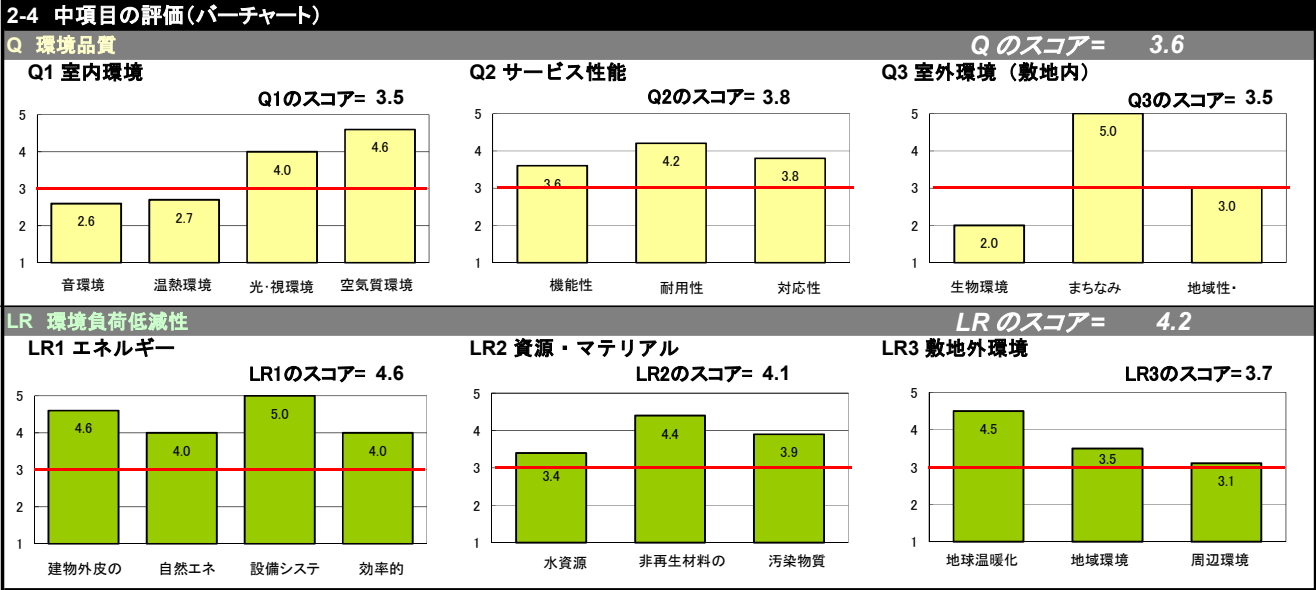
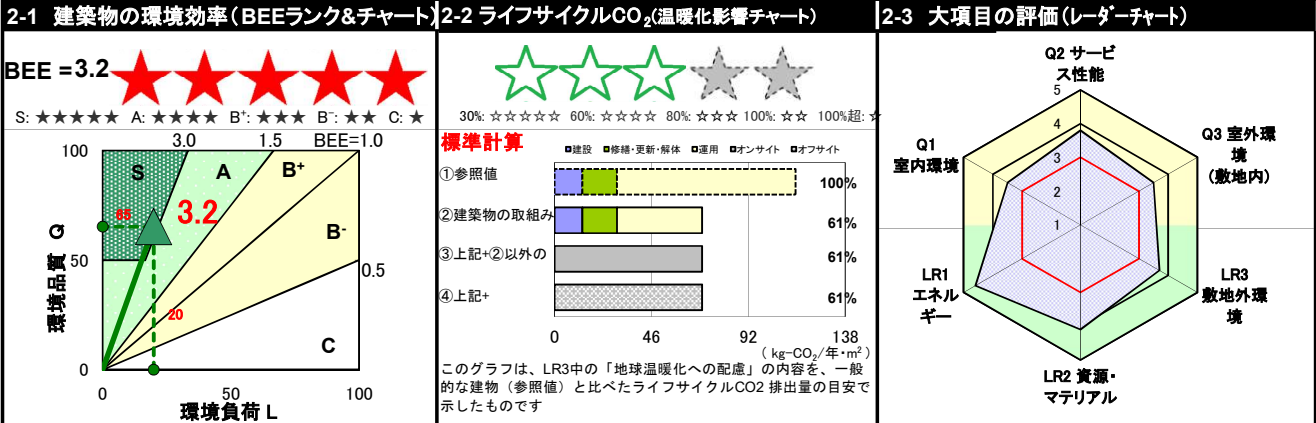


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	明治安田金沢ビル	階数	地上9F
建設地	石川県金沢市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	220 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,700 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2024年8月30日
敷地面積	1,578 m ²	作成者	株式会社イズミコンサルティング
建築面積	505 m ²	確認日	2024年8月30日
延床面積	4,206 m ²	確認者	大成建設株式会社



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
金沢市の中心市街地を形成している百万石通りに面している。 外装には木ルーバーを設け、金沢らしい外装計画により街の景観に配慮している。 また、防震構造採用や健康経営の取組みにより、ワーカーの健康性・快適性にも配慮している。		-
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・F☆☆☆☆、低VOC建材の採用による空気質環境への配慮	・防震構造の採用	・外装に木ルーバーを設けた金沢らしい外装計画
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・設備の高効率化によりZEB Readyを達成	・リサイクル材の採用により、非再生性資源の使用量削減に寄与	・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
明治安田金沢ビル

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.6
Q1 室内環境								3.5
1 音環境				2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル		-		1.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		遮音性能:T-2		4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		-		5.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-	
1.3 吸音		-		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				2.7	0.35	-	-	2.7
2.1 室温制御				3.6	0.50	-	-	
1 室温		-		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		-		2.5	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		冷暖同時、細かなゾーニング		5.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		-		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				4.0	0.25	-	-	4.0
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率≥2.5%		5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		-		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		照度:500 lx以上1000lx 未滿		4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		自動照明制御		5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				4.6	0.25	-	-	4.6
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆、低VOCの建材採用		5.0	1.00	-	-	
4.2 換気				3.6	0.30	-	-	
1 換気量		30m3/h・人以上		4.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積の1/30以上		4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 濃度監視、管理マニュアルの計画		5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		敷地内全館禁煙		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.8
1 機能性				3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ				2.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-		1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満足		4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高:2.9m以上、十分な窓の設置		5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		執務室の1%以上のリフレッシュスペースを確保、自販機の設置		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		建物全体のコンセプト、機能促進に配慮した内装計画等		5.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材の採用等、清掃のしやすさに配慮した設計		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				4.2	0.30	-	-	4.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		1.5割増以上の耐震性の確保		5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		免震構造の採用		5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		-		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装材の採用		5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウムダクトの採用		5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		耐用年数の長い配管材の採用		4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		吊り配管、災害時優先運転		5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水器具の採用、汚水槽の計画、非常用水栓の設置		4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		-		1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水対策、TVによる災害情報入手		4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	—	3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	-	-	
積載荷重4500N/㎡以上							
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	OAフロア等により、仕上材を傷めず修繕・更新可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	OAフロア等により、仕上材を傷めず修繕・更新可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
外装に木ルーバーを設けた金沢らしい外装計画							
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	4.2
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	4.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.6	0.20	-	-	4.6
BPI=0.84							
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			5.0	0.50	-	-	5.0
BEI=0.49							
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な用途別にエネルギー消費量を計測	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用管理体制の計画等	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水器具の採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.4	0.60	-	-	4.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
—							
2.2 既存建築躯体等の継続使用			5.0	0.20	-	-	
既存躯体の再利用							
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
—							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
舗装材、断熱材、岩綿吸音板							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			5.0	0.10	-	-	
針葉樹の採用							
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
LGS工法、OAフロアの採用							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
PRTR法対象物質を含有しない建材種別4つ以上							
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤	—	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮			4.5	0.33	-	-	4.5
LCCO2排出量低減							
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
燃焼機器の設置なし							
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
—							
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐輪・駐車スペースの計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
2	振動	—	-	-	-	-	
3	悪臭	—	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

明治安田金沢ビル

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	-	-	○	○	○	-	-	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0		-	○	-	○	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	-	1.0	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	-	-	-	1.0	-	1.0	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	-	2.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	1.0	-	-	-	-	1.0	3.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	-	1.0		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
屋光率 ≥ 2.5%					
自然換気有効開口面積率 ≥ 1/30					

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-
コンセント容量	≥30	VA/m ²							
天井高	≥2.9	m							

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

リフレッシュスペース	≥1%	レストスペース	-
想定耐用年数	-	年	
想定必要間隔	15	年	
想定必要間隔	20	年	
想定必要間隔	15	年	

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

階高	≥3.9	m
----	------	---

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	<0.5
-------	------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	≥4500	N/m ²
-----	-------	------------------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	12%	建物緑化指数	0%
--------	-----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	31%	水平投影面積率	4%	地表面対策面積率	4%	舗装面積率	24%
-----	-----	---------	----	----------	----	-------	-----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.84	断熱等性能等級	対象外 相当
----------------------	------	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%

3 設備システムの高効率化

BEI/BEI _m	非住宅	0.49	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
----------------------	-----	------	----	---	-----	------	------	------	-----	------

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	舗装材、断熱材	エコマーク商品	岩綿吸音板	自治体指定の特定品目等	-
--------	---------	---------	-------	-------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	≥50%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
---------------	--	--------------	--

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	
---------------	---	--------------	--

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	
---------------	---	--------------	--

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		97% 隣棟間隔指標Rw 0.20																	
地表面対策面積率		9.0%		屋根面対策面積率		0.0%		外壁面対策面積率		0.0%									
見付面積Sb		1,249㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		42.244 m		基準高さHb		30.38 m									
緑地		49㎡		水面		㎡		保水性対策面		61㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	